

8/1 マタイの福音書 6章 19-34節 「まず神の国と神の義を」

小池 宏明 牧師

今日の聖書箇所、多く取り上げられているのは、地上で生きていくための心配事と労苦である。

*心配しなくてよい

私たちは、自らの肉の命を保つために、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか、毎日毎日、心配して、思い煩って生きている。これは貧しい人だけの悩みではなくて、すべての人々に共通する苦悩ではないだろうか。それが「悪いことだ」と言うのではない。地上で生きる肉体には、衣食住がどうしても必要である。

しかし、主イエス様は集まって来た弟子たちに言われた。31、32節「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。」この地上で、この肉体の生命を守るために何が必要なのか、天の父なる神様は、すべてちゃんと知っていてくださる。その上で、主イエス様は33節「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」と語られた。主は優先順位を整えなさい、と命じておられる。

*主は神の国と神の義を与えたい

①「神の国を求める」ことは、この世のことばかりに心を奪われることなく主なる神様のご臨在の中で生きなさい、と言うことです。主イエス様は、神の国の素晴らしさ（神のご支配の下で生きる人生の幸い）をよく知っていて、「まず神の国を求めなさい」と励まして下さった。救い出されたキリスト者は、地上に住んでいるが、もはや、この世の者ではない。キリストのものなのである。「キリストのものにされているのだから神の国を求めなさい！」と言うことなのである。

②「神の義を求める」ことは、主なる神様の御心に従って生きることである。この山上の説教には、主の御心が語られている。それは、異邦人のようではなく、律法学者やパリサイ人の義でもない、まさに神の義が示されているのだ。

すなわち、主なる神様が何をお喜びになるのか、神様の御心を求めて、お従いすることである。そうすれば、必要な衣食住などの地上的な祝福がセットで与えられるという約束がある。なぜなら、主イエス様は、地上で生き抜いていかなければならない私たちのすべての必要を知っておられ、神の国を与え、神の義を与え、地上的な祝福も一緒に与えたいのである。主イエス様は私たちを愛して、ご自分がお持ちのすべてを与えたい、与え尽くしたいのである。